

方伎雜誌

三

ヤ 9
875
3止



門 武 0
875
440
卷 9 止

方伎雜誌卷三



伯 武雄



尾臺逸士超著 男

仲 重遠

同校

叔 存義

逸按ズルニ。仲景ノ方ハ。其本ハ古聖賢ノ制作ナル
ベシ。故ニ謹テ遵守シ。妄意ニ去加スベカラズ。桂
枝湯ハ。桂枝三兩。芍藥三兩。甘艸二兩。大棗十二枚。
生薑三兩。以上五味也。此五味ヲ組合セタルト。各
藥分量ノ差等アルト。各方ニ。水率煮法ノ異同ア

方伎雜誌

卷三

一

醫學叢書

ルト。其立方制作ノ意ハ。イカナルワケカ。凡慮ヲ以テ思議スベカラズ。諸方皆シカリ。但其言ニ從ヒ。症候ヲ諦診シテ。對症ノ方ヲ用ユル時ハ。効應影響ノ如シ。次第ニ熟煉スル時ハ。オノツカラ運化活用モ。心ノマ、ニ出来ル也。サリナガラ時ニ取リテハ。去加モ。合方モ。セ子バナラヌトモアリ。然シ是ハ方用ノ已ニ手ニ入りテノ後ノ一也。方用モ手ニ入ラヌ内ニ。縱ニ去加スル時ハ。大ニ方ノ規律ヲ亂シ。方意ヲ失フニ至ルトアリ。サテ其方

用ノ手ニ入ルハ。造次ニモ。顛沛ニモ。仲景ノ方ニ。從事スル時ハ。自然ニ熟煉シテ。運用變化。自由ニ至ル也。處療ノ窮迫スルゴトニ。晋唐宋元明清ノ方ヲ搜索シ用ヒテハ。生涯方用ノ得所ハ出来ヌナリ。

加味合方兼用ノ一ハ。余アラマシ類聚方廣義中ニ出ダセリ。然シ成ルベキタケハ。方ノマ、一方ニテ。療治スルガヨシ。症ノ主客真假ヲ洞見シテ。治ヲ下セバ。一方ニテ何モカモ治スル也。去ナガラ

ソフナラヌトモアル故。東洞先生モ。十二律方ヲ
撰ミ。兼用ニイタサレタリ。煎藥ノ兼用ハ。ナルタ
ケセヌガヨシ。兼用ヲ使フト。本方ノ貼數ヲ耗ス
ヨリ外ハナシ。及テヨロシカラズ。病家ニテハ。兼
用ノ加減ノト云フヲ。巧者ナル鑿者ト思ヒ。喜
ブ者多シ。鑿人其好ミニ投ジテ。色色トスル者多
シ。遂ニハ銜售ノ心ヲ生ズルニモ至ルナリ。
平素死生ノトヲ。謀謀ト談ズル鑿人ハ。大病人ニ對
スルト。必周章狼狽スルト。庸工ト異ナラズ。余ガ

屢見ル所ナリ。親子妻妾等ノ病ニハ。サホドニ重
患ニモ非ザルニ。ウロタヘサワギ。思案モ。分別モ。
出テ又人多シ。耻ベキトナラズヤ。是死生ノトヲ
口ニハ云ヘ凡。實ハ知レヌ故ナリ。ソレ故大事ニ
臨ミテ。別シテ狼狽頓踣スル也。コノ故ニ鑿ハ。知
レヌ死生ノトヲ。學習センヨリハ。疾ヲ治スルトヲ。第
一ニ學習スベシ。此疾ハ此方ニテ。疑ヒナク治ス
ルト云フヲ知ル時ハ。變化百出スルトモ。何ゾ
狼狽顛倒スルトアラシヤ。死生ノ知レヌトハ前

大倉公ガ言ニテ。知ルベシ。

疾ノ暴急篤劇沈滯。コレ等ハ。治効ヲ奏スル。容易ニ非ズ。故ニ平素專心覃思シテ。仲景ノ方法ヲ修鍊シ。治療ノ機關ヲ自得スベシ。モシ已ガ伎術拙フシテ。病人ノ死シタル時ニ。人事ハ已ニ盡シタリ。死生ハ。醫ノ與ラザル所ナリ。ナド、ハ云ヒ難カルベシ。ヨクヨク思フベキナリ。

東洞先生曰。術之不明。方之不中。而致死者。非命矣。執古之方體。今之病。能合仲景之規矩。而死者。命也。實

之鬼神。吾無愧爾。ト誠ニ至當ノ言也。此ノ如クシテ死シタルハ。タトヒ他人ハイカ、議スルトモ。吾ハ内ニ省ミテ。疚シキナシ。醫タル者。服膺セズンハアルベカラズ。

生知學知困知。安行利行勉強行ノ。中庸ニ見ヘタリ。生知安行ハ。聖賢ノ。也。但學知困知。利行勉強行ハ。中人以下ニテモ。志ヲ立テ、奮礪スレバ。其志サス程ノ。成就スル也。孔子曰。學而不思。則罔思。而不學。則殆。ト。管子曰。思之。思之。又重思之。思

之而不通鬼神將通之非鬼神之力也精氣之極也
ト此言服膺セズンバアルベカラズ孟子モ行レ之
而不著焉習矣而不察焉終身由之而不知其道者
衆也トイヘリ故ニ術ノ拙ナルハ皆規則ヲ得ザ
ルト心思ヲ盡サバルトヲ以テナリ

六經四子ハ云フニ及バズ古書ハ何ヲ讀ミテモ其
中ニ鑿術ニ益アルコトマ、アリヨクヨク心ヲ著
ケテ熟覽スベシ素靈以下ノ鑿書ノ如ク空論妄
説ハ少シモナシ余古書ヲ流覽ノ次テ漢魏以上

ノ書中ヨリ鑿事ニ關係スル論ヲ抄出シ箋釋シ
テ鑿餘三卷ヲ撰著ス識者ノ觀ニ供スルニ足ラ
スト雖以テ其義ヲ見ルベシ

温故知新ハ學者ノ要務也然ルニ知新ニ心ヲ盡ス
ト云フ人ハアルレ氏温故ニ心ヲ用ユル人ハ稀也
豈アヤマラズヤ

和而不流強哉矯中立而不倚強哉矯ト人此心ナク
ンバアルベカラズ然ラザレバ必阿媚諂諛ノ心
ヲ生ズル也慎ムベシ

學風ヲ改メ。事業ヲ易ル人。幽谷ヲ出テ。喬木ニ遷ル。ナド、云フ人アリ。其意ハ實ハ然ラズ。且父師ノ訓ヲ。幽谷ナド、云フハ。何事ゾヤ。其意底ヲ察スレバ。唯是重糶名利ニ過ギズ。豈醜顏ナラズヤ。先考支方先生ハ。余十三歳ノ時。四十七歳ニテ。身マカリ玉ヒヌ。家兄ハ僅ニ廿三歳。家道ノ衰謝。云フベカラズ。此時王父紫峰君。已ニ八十八歳ニナラセラレ。尚矍鑠トシテ。居玉ヲ故ニ。余日夜書ヲ誦讀講習セリ。此冬王父君モ。マタ木ニ就キ玉ヒヌ。

故ニイカントモスルヲ能ハズ。因テ十六歳ノ春。斷然トシテ東遊セリ。

余成長スルニ随ヒ。早ク先考ニオクレシノ悲シキヲ覺ユ。先考ノ斷箋片紙ニ。カレコレ。書キ殘サレタル物ヲ。見出シテ。拜讀セシニ。一一感服ニ堪ヘズ。今子孫ヘノ庭訓ニモト。一二條ヲコ、ニ表出スルノミ。

先考曰。貧子白身ハ。ワケテ。極恤ノ心ヲ興シ。深切ニアツカフヲ大切也。日日往テ診視スベシ。

貧家ノ病者ハ。危篤ニ見ヘテモ。藥治ニヨリテ。快復スルヲ間アル也。富家ノ患者ハ。輕症ニ見ヘテモ。忽大病ニ變ズルヲアル者也。是故ニ總テ病人ハ。初中終トモニ。油斷ナク其症候ヲ諦察シテ。療スル時ハ。存外ノ功アルモノ也。

疾ノ初發ヨリ。死ニ至ルマデ。一鑿ノ手ヲハナレヌ者ハ。貧家也。コノ故ニ貧家ノ疾ヲ。ヨク取扱ヘバ。必開闔離合ノ機ヲ理會シテ。治法ニ精シクナルナリ。

譬バ病人ハ。臨本也。藥種ハ。紙筆也。故ニ病人ヲ臨本トシテ。藥劑ヲ費ヤスニ非ザレバ。治法ヲ了會シ難シ。因テ貧家ヲ法帖トシテ。藥ヲ施スニ。一毫モ鄙吝ノ心ヲ生ゼズ。心ノマヽニ使用スベシ。

貧家ノ病者ヲ。末長ク取扱フニハ。第一儉素ヲ本トシ。壞宅ニ安ンジ。蔬食惡衣ヲ常トシ。藥舖ノ舊債ヲ。完償スルニ非ザレバ。此一事ハ行ヒ難シ。

病人ヲ診察スル時。心ヲ正シクシテ。シトヤカニ。眈察スベシ。輕躁ニシテ。人ノ嘲リヲ。受ルヲナカレ。

緇徒ノ小僧小僧ト呼バル、時ト。醫人ノ年若キ時ホド。人ニケナサレテ。ラチノアカヌ者ハナシ。ヨク慎謹シテ。病者ヲ診スベシ。

以上件件ノ通りニ。行フニハ。旦夕古聖人ノ書ヲ熟讀シテ。古ノ名工德醫ノ格言偉論善行ヲ記シ居テ。ソレヲ我が身ニヒキアテ、苦思力學スレバ。其真似モ出来ルナリ。別テ貧家ノ病人ヲ。始終取扱フテ。療治スルヲ。初學第一ノ誓古トス。

俚歌ニ。好キ利發。根氣ノ三ツヲ。クラブレバ。好キコ

ソ。物ノ。上手ナリケレトカヤ。治療モ。自分ガ好キテ。面白ク思ハ子バ。上達セ又也。以上先考遺言

古今ノ醫法ニ。仲景ノ如ク。條理規則ノ正キハ無ク。又簡明良善ナル方モナシ。故ニヨク其書ヲ熟讀シ。自己ノ手眼ヲ運ラシ。伎術ニ妙ヲ得タ人ニ從ヒ。其治療ノ機關ヲ學習スベシ。名手ノ篤劇ノ疾ヲ救ヒ。危殆ノ厄ヲ脱セシムルハ。常度ニ拘泥シ。陳套ヲ死守スル人ト。同シカラズ。法ヲ離レテ。法ニ合シ。式ニ背ヒテ。式ニ符スル也。然レ氏此ハ堂

堂正正ノ鑿術ヨリ入り。投撥達權ノ場ニ至ラザレバ。能ハザルナリ。

書不^ス盡^サ言^ハ言^ハ不^ス盡^サ意^ト云ヘリ。鑿法モ妙處ニ至リテハ。書ニ述ベ難キ所アリ。故ニ仲景ノ書ニ本ヅキ。古人ノ詩ヲ賦スルガ如ク。章ヲ斷ジテ。義ヲ取り。用ユル時ハ。方法ノ運用變通。僚ノ丸ヲ弄スルガ如シ。必紙上ノ論ニ。牢執スベカラズ。不^ス以^テ文^ヲ害^セ辭^ヲ。以^テ意^ヲ逆^ラ志^ト云フ^{コト}アリ。深ク此義ヲ考ヘテ。方劑ヲ活用スベシ。

仲景ノ書ヲ。誦讀諳記シタリトモ。必伎ノ妙處ニ至ル^{コト}ハ難シ。故ニ良師ニ從學シテ。其事實ノ開闔ヲ見ルベシ。古人モ百聞不^ス如^ク一見^ト云ヘリ。世ニ釣ノ獨替古ト云フ書アリ。之ヲ熟覽諳記シタリトテ。直ニ釣ノ出来ルモノニハ非ズ。挿^ハ花^ハ茶^ハノ湯等。各其書アレ^バ。其理皆然リ。良工ニ從學シ。面命指授ヲ得テ。又師ノナス處ヲ熟視勉習スベシ。仲景ナシト雖。猶興ルノ人ニ非ザルヨリハ。師傳ナクテハ。仲^モ名手ニハ至リガタシ。故ニ師ヲ擇ム

一肝要也。博覽ノ人。崇患危症ニ臨ミ。狼狽失措。平
 日ノ議論。用ヲナサズ。庸工凡手ト異ナルヲナキ
 ハ。皆學習ヲ經ザルガ故也。學鑿ハ匙ガ運ラヌナ
 ド。俗人ノ嘲ルモ理也。イツレニモ。良師ニ從學
 シ。刻苦研鑽シテ。伎術ノ妙處ヲ晤ルベシ。
 相州浦賀ノ川間ト云フ處ニ。六兵衛ト稱スル人ア
 リ。魚ヲ釣ル名人也ト云フ。或人其妙ヲ得タシト。
 乞セシニ。六兵衛云セケルハ。妙處トテ。直ニ指授
 口傳スルヲモナラズ。又別ニ奇妙ノ仕方モナシ。

唯天氣モヤウニテ。餌ノ懸ケヤウノアルノミト
 テ。教ヘタリトゾ。是ハ實地ニテ。自得シタル也。此
 人ハ棘鬣魚。比目魚ナドノカ、リタルハ。水ノ中
 ヲリ。出テヌウチニ。今度ハ棘鬣魚。今度ハ比目魚
 ナリト。アラカジメ知ルト云ヘリ。至妙ト云フベ
 シ。十三歳ヨリ。釣ヲ始メ。今年戊辰巳ニ七十五歳
 也トゾ。又上総東金ニ。総右衛門ト云フ者アリ。鰻
 鱺ヲ釣ルニ。妙ヲ得タリト。鰻鱺ガカ、ルト。水ヨ
 リ上ゲヌウチニ。今度ハ三十夕。今度ハ四十夕。今

度ハ三十幾分ト云フ。分厘ヲタガヘヌト云フ。又風雨ニ拘ラズ。天氣ノモヤウヲ見テ。今日ハ釣レル日。今日ハ釣レヌ日ト云フ。知ルト云フ。朝出カケテモ。此天氣モヤウニナリテハ。トテモカ、ラヌトテ。竿ヲ提テ。直ニ家ニ歸ルト云ヘリ。實地ニテ。自得スルトハイヘドモ。單思致意スルニ非ザレバ。此ニ至ル。能ハズ。鑿人モ。治療ノ機關ヲ得ル。此ノ如ク有度。也。此二條ハ。浦賀ノ稿本與左衛門ノ話ナリ。

書籍ヲ流覽スルニ。正論ノ中ニモ。非ナル。トアリ。タトヒ非ナラザルモ。今日取用ヒ難キ所アリ。又僻説ニ似タリトモ。其言有用ノ。トアリ。故ニ全是ノ書ナク。全非ノ説ナシ。心ヲ虚ニシ。氣ヲ平ラカニシテ。覽ルベシ。且其是トスル所。必シモ是ナラズ。非ト思ヒシ説モ。必シモ非ナラズ。其書歲月ヲ經テ。再覽スレバ。以前是也ト思ヒシ。ト。是ナラザル。トアリ。非也トセシ。ト。非ナラザル。トアリ。鑿事ハ。日日實地ニ。施シ用ユル。トナレバ。尤其事ヲ

精覈詳究スベシ。匆匆ニ省過スベカラズ。
クスシテウ。名サヘハヅカシ。今ハタゞ。人ニ疾ノ無
キ世トモガナ。東洞先生ノ歌也。拜讀シテ。其襟度
ヲ見ルベシ。世鑿ノ了簡トハ。格別ノ者也。

東洞先生曰。京師祇園町。伊勢屋長兵衛ト云フ者ヲ。
療治シタルヲアリ。其病人泄瀉ノ症ニテ。世鑿治
シ難シト云フ。則余ヲ招グ。往テ之ヲ診スルニ。心
下落鞭。水瀉嘔逆シテ。マサニ絶セントス。余曰。此
方ノ療治ハ。世上大ニ恐ルヽナリ。其故ハ今ノ鑿

ノ甚ヤハラカナルト云フ藥モ。此方ガ用ヒ。病ニ
的中スル時ハ。大ニ瞑眩スル也。其瞑眩ニ恐レテ
ハ。病ハ治セヌモノ也ト云ヒケレバ。病家ノ者。會
釋レテ。藥ヲ乞フ。乃生薑瀉心湯ヲ。三貼用ヒケレ
バ。其日七ツ時分。大ニ吐瀉シテ。病人氣絶ス。是ニ
ヨリテ家内大ニ騷動シ。鑿ヲ集テ。診セシムレバ。
皆死シタリト云テ歸ル。因テ急ニ余ヲ招ク。又往
テ之ヲ診スレバ。色脉呼吸皆絶タリ。家内ノ者モ。
死セリトス。誠ニ死シタル様ニ。見ユレ氏。其形状

ニ疑ヒアリ。且死シテヨリ。漸クニ時許リ也ト云
フ。先ヅ静マリテ。イヨイヨ死シタルカ。死セザル
カヲ。見合スベシ。藥ハ前方ヲ口ニ入レテ。通ラバ。
又入レベシト云テ。歸リケル。其夜九ツ時分。病人
夢ノサメタル如ク。目ヲ開キ。一類眷屬集リ居ル
ハ。何故ゾト問フ。一類ノ者モ。驚キテ云フヤフハ。
今日七ツ時分ヨリ。只今マデ色脉呼吸トモニ絶
ヘタリ。醫者ヲ集メテ。見セシムルニ。死人ニ藥ナ
シト云テ。皆歸レリ。夫故ニ集リ居ル也ト云ヒケ

レバ。病人モ不思議ニ思ヒ。晝ノウチ。大ニ瀉シタ
リ。其後一向病苦モナク。寢タル様ニ覺ヘタリ。最
早氣カモヨクナリタル程ニ。皆皆歸ルベシト云
ヒケレ氏。一族ノ者訝カシク思ヒ。晝見セタル近
所ノ醫ヲ招キテ。診察セシムルニ。脉モ常ノ如ク。
何モ病ナシト云テ。歸リケル故。病人イヨイヨ氣
カヲ得。何分歸ルベシト云ヒケレバ。一族ノ者モ。
歸リケリ。其跡ニテ甚饑タリト云テ。茶漬三椀ヲ
食シ。悦テ寢ヌ。翌朝益丈夫ニナリ。多年ノ病ヲ忘

レケリ。此人幼年ヨリ。食物ニアタル故。白粥ニテ
養育セラレ。年四十餘ニナリテモ。喰ヒナレヌ物
ヲ喰ヘバ。直ニアタル故。食フコトアタハズ。然ルニ
右ノ病。治シテ後ハ。何ヲ食フテモ。アタルコトナク。
七十歳マデモ。壯健ニクラシケリ。此病人モ最初
毒ヲ見定メ。其毒ニ方ヲツケテ。療治スルノミ。最
初ヨリ死スルモ。生ルモ。知ラズシテ。藥ヲ與ヘケ
ルニ。カク人如クナリタルハ。死ナヌ者故。生キタ
ルト云フ者ナリ。何國ノ病人ヲ預リテモ。死生ヲ

知ラヌト云フ故。恐ル、人多シ。然レモ生死ヲ知
ルト云フヨリ。知ラヌト云フ療治ニ。効ノアルコ
考フベシ。前カタ或老人余ヲ諫メタルコトアリ。足
下平日生死ヲ知ラヌト云ヘル故。世上ノ人。大ニ
恐ル。其事ヲ云ハズシテ。療治ヲ施シタマハ。頼
ム人モ多ク。人ヲ助クルコトモ多カラント云ヘリ。
竊ニ之ヲ考フルニ。我ヲ世ニ顯サントテ。深切ニ
教ヘタマフ。甚ダ辱ジケナキコトナレ氏。固ヨリ
生死ハ知ラヌコトナリ。假令世ニ行ハル、トイヘ

氏。偽ハ云ハレズ。長者ノ諫メラル、_レ故。辭退モ
 ナリ難シ。然レシナガラ。人ノ疾苦ヲ救ヒ。吾道ヲ末
 世ニ傳ヘテ。人ノ助ケニナラン_レ。年来ノ志願ナ
 レハ。假令鑿術行ハレズ。餓死ニ及ブトモ。道ヲバ
 違フベカラズ。顔淵曰。夫子之道。至大。故天下莫能
 容。雖然。夫子推而行之。不容何病。不容然後見君子。
 夫道之不脩也。是吾醜也。夫道既已大脩而不用。是
 有國者之醜也。不容何病。不容然後見君子。鑿モ
 亦然リ。二千年絶ヘタル道又興シ。行フ_レナレバ。

假令餓死ニ及ブトモ。此道世ニ行ハレナバ。吾生
 涯ノ本望ナリ。折角諫メラレシ_レナレ氏。此ノ如
 ク道ノ大事ナレバ。云ヒ死ニスベシト。辭ジケレ
 バ。彼老人憮然トシテ去レリ。然レ氏道ニ背キ。人
 ノ好ムヤウニセン_レ。吾ガスル所ニアラス。生死
 ノワケ。明カナラザレバ。鑿術ヲ得ル_レ能ハザル
 故也。ナンゾ云ヒワケニ。為スベケンヤ。云ヒワケ
 ニアラザル_レハ。病ノ治スルヲ。以テ。知ルベシト
 云ヘリ。孔子曰。篤信好古。守死善道ト。豈先生ノ謂

ナラズヤ。

盡人事而俟天命矣ト云フハ東洞先生ノ言ニシテ。鑿斷ニ見ヘタリ。至言ト云フベシ。然レソレヲ口實トシテ。病人死スルト。余ハ已ニ人事ヲ盡シタリ。其死スルハ天命也。ナトバ云フ鑿人多シ。何如心得テ。サヤウノ言ヲ吐クニヤ。人事ヲ盡スト云フ。豈容易ナランヤ。已ハ人事ヲ盡セリト思フトモ。其實ハ未人事ヲ盡サズルコトアリ。人ハ死生ヨリ大ナルハナシ。深ク思ヒテ。伎術ヲ精究スベシ。

東洞先生。試驗實歷シテ。類聚方ヲ著シ。古方使用ノ基礎ヲ建玉ヒ。又十二律方ヲ撰シテ。兼用單用ニ備フ。其他鵝鴒菜湯。桃華湯。黃連解毒湯。石膏黃連甘艸湯。桂枝桔梗湯。大黃五物湯。赤龍皮湯。梅肉丸。伯州散。龍葵丸。七寶丸。後七寶丸。續七寶丸。生生乳十幹丸ノ如キ。効驗ノ神妙。謂フベカラズ。七術控倭ノ中ニテ。其試驗采收セラレシハ。有難キコトニ非ズヤ。吾輩安然トシテ。其徳ニ浴シ。其効ヲ収ム

ル。深ク感戴スベシ。

紫圓ハ。千金方ニ出ヅ。其効驗服度。委シク見ヘタリ。
宋ノ楊士瀛。王碩。清ノ陳復正ナドモ。ヨク之ヲ用
ユ。余ソノ事ヲ。橘黃鑿談ニ載セ置ケリ。世鑿甚懼
レテ。用ヒサル者アリ。又方ヲモ知ラズシテ。懼レ
嫌フ者モ多クアリ。是ハ西洋ノ說ニ。巴豆ハ腸胃
ヲ糜爛スルト云フ妄論ヲ。信ジテノコナルベシ。
其無識ナルコト。笑ニ堪ヘズ。用ヒ熟スル時ハ。其用
甚廣シ。

伯州散ハ。和方也ト云フ。然ルヤ否ヤ。排毒托膿ニハ。
大ニ効アリ。瘡家ニハ必用ユベシ。

梅肉丸ハ。伏見ノ鍛工某ノ秘方ニテ。松原閑齋コレ
ヲ受ケ。東洞先生ハ。其門人福嵩喜又ナル者ヨリ
受ル所トゾ。

七寶丸ハ。江州膽吹山下ノ老婆。秘藏シ置キシヲ。東
洞先生。三十金ヲ贈リ。其方ヲ得ラレタリト。梅肉
七寶ノ二事ハ。先友土井東民ノ話ナリ。

生生乳ハ。始テ陳九韶ノ懲瘡秘録ニ見ユ。用方ノ廣

ク。効カノ著シキハ。其書ニ詳ナリ。余ガ三十歳ノ
コロマデハ。岑二宮二氏。及其門人ハ。皆自身ニ製
シテ。用ヒタリ。藥肆ニテハ。燒キ上ゲテ。目方ノ取
レル様ニ。水銀ヲ多クスル故。病ニアタリ強ク。宜
シカラズ。必原方ノ如クニシテ。自身ニ燒クベキ
ナリ。

生生乳ヲ燒クニハ。方ノ如ク。藥ヲ末トシ。雲母ハ。唐
雲母ヲ鹽水ニ漬テ干シ。カハカシテ。末トナシ。七
味合和シテ。乳鉢ニ入レ。其中へ水銀ヲ入レ津唾

ヲ吐キコミナガラ。搗クト。水銀ヨク諸藥ト和ス
ル也。梅酢ニテモヨシ。星ヲ見ザルヲ度トスベシ。
ソレヨリ燒壺ニ移シ。ヨク平ラカニ。押ツケ。五六
十日。其マ、置クト。諸藥氣味融和スル也。堅ク干
付クヤウニナリタル時燒ク也。製スルニハ。五六
七月ノ際ヲ佳トス。

燒壺ハ。泥壺ニテ。植木鉢ノ形ニヤカセ。高サ鯨尺ニ
テ四寸位。口ノ徑リ三寸五分位ニシ。蓋ハ。カケゴ
ノ様ニ製シ。蓋ノフチヨリ。身ノフチへ。三箇處穴

ヲアケテ。燒カセ。銅線ニテシメテ。其上ヲ土ニ鹽
ヲ交セ子リテ。密封シテ。乾シ。サテ庭上ノ土ヲ掘
リ。鉢ヲ倒ニ填メ。底ノ裏ヲ少シ出シ置キ。炭ヲ其
上ニテタク也。炭ハ。大抵五百目ホド用ユル也。其
後掘出シ。壺ヲ倒ニシテ。火氣ヲサマシ。土ヲ去リ。
身ノ方ヲ取レバ。蓋ノウラニ。乳ハ束針ノ如ク著
ク也。大概十二三匁ハアル也。細末ノ如キトコロ
モ。十二三匁ハアル也。賣物ニ製スル者ハ。水銀ノ
量ヲ増シテ。乳ヲ多ク取ルト云ヘリ。効ノ宜シカ
ラザル所以ナリ。

毛ヲ顯微鏡ニテ見レバ。枝アリト。蘭書ニ云ヘリ。鑿
範提綱ニ。其圖ヲ見ハス。人皆其事精密ニシテ。其
說新奇ナリトテ驚ケリ。然レ凡毛字。篆ニ出ニ作
ルヲ見テ。毛ニ枝アルヲ知ルベシ。故ニ形容ヲ
取り。草木ヲモ。毛ト云ヘリ。左傳ニ。谿澗沼沚之毛。
隱公三年又草木ナキ地ヲ。不毛ノ地ト云フ。三國
志孔明傳ニ。深入不毛トアリ。篆又出ニ作ル。制字
ノ義。以テ見ルベシ。蓋上古聖賢ノ制作。思ヲ造化

ニ通ズ。故ニ每事ニ盡サバ。ル所ナシ。豈貴カラズヤ。

腸胃ハ。飲食受容消化ノ器ユヘ。種種ノ物コ、ニ入ル。故ニヨク化熟轉輸ストイヘ。汚濁痰液。生ゼザル。能ハズ。是亦自然ノ勢也。痢疾ナドニ。感ズルハ。此毒ノ留滯アルガ故也。留滯ナク。氣血宜通シ。毛蒸理泄スル時ハ。決シテ此患ニカ、ラズ。疫痢流行ノ時ニ。預紫圓六七分ヨリ一錢モ。服サシノ。俊瀉八九行モ取リ。腹中ヲ蕩滌洗浣シ。翌日一日

ハ。糜粥ニテ將養スル時ハ。神氣快然トシテ。痢疾ノ厄ヲ免ル、ト妙也。試ミテ余ガ言ノ妄ナラザルヲ。知ルベシ。

諸病トモ。初發手早ク治療スレバ。大抵ハ大患ニ至ラズ。治スル也。手オクレ故ニ。皆大患トナル也。外邪ナド。治療スルニ。十人ガ十人。桂枝湯。桂枝加葛根湯等ノ症ハナシ。皆モハヤ麻黃湯。葛根湯。大青龍湯ノ症ナル故ニ。十分ニ發汗シテモ。大柴胡湯。白虎湯ノ症トナリ。遂ニハ調胃承氣湯。大小承氣

湯ノ症ニス、ム也。或ハ壞病脫症トナリ。精氣衰
耗シテ。死ニ至ルアリ。病家ニテハ。服藥サヘスレ
バ。治スト思ヒ。鑿ノ巧拙ヲモ。辨ヘズ。服藥スレバ。
已ニ手オクレノ上ニ。庸鑿ニ委スレバ。處方齟齬
シテ。イカホド藥ヲ用ヒテモ。用ヲナサズ。病ハ追
追ス、ミ。遂ニハ死スル也。是ハ鑿ノ殺スト云フ
モノ也。余傷寒論ヲ覽ルニ。誤治ノ症多ク見ユ。古
時尚シカリ。歎スベシ。鑿タル者ハ。治術ヲ研究シ。
崇患篤疾ヲ挽回セズンバアルベカラズ。

鹿嶋源藏僕某年五十餘。大疫ヲ患フ。惡熱讞語。腹滿
便閉。渴シテ舌黒ク。脉沈實ナリ。余大承氣湯ヲ用
ヒ。下利。日日七八行。熱追追解シ。十餘日ニシテ。精
神常ニ復セリ。一日又大熱ヲ發シ。讞言妄語前ノ
如ク。イカナルト思ヒシニ。耳前ニ腫ヲ發ス。所
謂發頤ナリ。隆起スルト一寸。根脚二寸餘ニ及ベ
リ。コハニ於テ小柴胡加石膏湯ヲ用ユ。三四日ニ
シテ赤色ヲアラハス。因テ破敵膏ヲ貼ス。二三日
ノ後潰破シテ。瘀膿夥シクイテタリ。瘡口深サ四

五分ニ及ベリ。コ、ニ於テ。乾綿絲ニ破敵膏ヲ又
 リテ。瘡口へ押シ入ル、。晝夜三次。耳中へモ。破
 潰シ。膿汁淋漓タリ。膿ノ出ルニシタガヒ。熱氣去
 リ。食ス、。三。精神追追常ニ復ス。三十餘日ニシテ
 全愈セリ。傷寒發頤ハ稀ナル症ニテ。余ガ療スル
 所僅ニ數人ノミ。然レ凡皆全治セリ。是其一ナリ。
 妊娠惡阻症ニ。如何シテモ嘔吐ノ治サヌ者アリ。是
 ハ惡阻ノミナラズ。胸腹ニ所謂奸アル者也。狩野
 東吾ガ妻。満月マデ嘔吐不止。柴瘦シテ。骨ト皮バ

カリニナリタリ。漸七八箇月ヨリ。糜粥ヲ少シヅ
 ヲ用ヒタリ。然ルニ胎ハ滯リナク長育シタリ。腹
 肉脱シテ。グニヤグニヤトシテ。胎ヲ按スレバ。左
 右上下へ遷移シ。恰モ西瓜ニ風呂敷ヲカブセタ
 ル様也。然ルニ胎ハ満月マデ保チ。子細ナク分娩
 セリ。産後ハ嘔吐ヤミ。スラスラ平常ニ復セリ。小
 兒ハ劣弱ニテアリシガ。東吾亡父ハ師中ト稱シ。
 古方醫ニテアリシ故ニ。其寡婦紫圓ヲ手製シ置
 キ。不快ノ時ハ。之ヲ用ヒ。竟ニソダテ上ゲタリ。ニ

三歳ヨリ。健固ニ成長シ。十五歳ニテ。聳ヲ貫ヒ。十
七歳ニテ。一子ヲ産セリ。翌年安政戊午。流行ノ霍
亂ニテ。晝夜吐瀉悶亂セリ。余之ヲ療シ。辛フシテ復
故セリ。治後日ナラスシテ。真栗瓜ヲ飽食シテ。傷
ラレ死セリト云フ。惜ムベシ。東吾妻ノ惡阻ト産
トハ。稀ナル也。

江戸芝浦魚行店某ノ兒。賦生脆弱ナリ。家人云フ。五
七日已来。少シモ乳ヲ飲マズ。シカシ甘藷鷄子ノ
類ハ夕べ候フ故。夫ニテ命ヲ繋ギ候ヘ凡。小兒ノ

下故。何ヲ問テモ。ワカラズ。困リキリ候。近邊ノ醫
人ニハ。何病トモ一向ワカラズ。何故ニ乳ヲ飲ミ
カ子候ヤト云フ。コレヲ診スルニ。何モ差シタル
子細モ見ヘズ。熟考スルニ。會壓ガ凝リテ。氣道ノ
開閉ガ常ノ如ク敏捷ニ出来ヌ故。乳ヲスパスパ
ト飲ムコトナラス。甘藷鷄子ノ類ハ。静ニ飲ミコム
故。會壓ノ働キ。間ニ合ヒ。飲ミコメル也ト。家内ノ
者へ申シ聞セ。小兒故ニ。煎藥ハ多服ナルマジキ
ヲ察シ。龍葵丸ヲ用ヒ。日日四五度ツ、下シケレ

ハ。モトヨリ腫モ痛モナク。但肩ノ凝リ強バリタ
ル如キ症故。四五日シテ常ノ如クニナリタリ。
大須賀貞助ナル者。腰痛ヲ患フ。股脚ヘヒキツリ。杖
ニスガリ。漸ク歩行ス。之ヲ診スルニ。黴毒ノ餘孽
也。當人病名ヲ問フ。家人側ニ居ル故。アカラサマ
ニモ云ハレズ。疝ナリト答フ。主方ハ芍藥甘草附
子湯ヲ用ヒ。七寶拳氣丸ヲ。一錢ヅ。毎日兼用シ
タリ。年来ノ宿毒故。速ニ治セズ。病人退窟シテ。一
老鑿ニ轉ズ。此ハ此項ノハヤリ鑿ナリ。診シ了リ。

病人ニ對シテ云ヒケルハ。此症ヲ疝ト見ルハ。大
間違ナリ。此ハ乾脚氣也ト云ヒケレハ。病人ハ脚氣ヲ
疝ノ療治ニテハ。治サヌモ尤也トテ。直ニ藥ヲ乞
フ。其後余ニ其藥ヲ見セケルニ。茴香。延胡索。蛇床
子。青皮。川棟子。午膝ナド。調合ノ藥ニテ。後世家ノ
疝ノ手當テノ藥ナリ。余病者ニ謂テ云ク。余ハ見
症ニシタガヒ。病名ニハ拘ラズ候ヘ氏。御尋子故
疝ト申シタリ。其實ハ千ニテモ。萬ニテモ。決シテ
名目ニハカ、ハリ申サズ。但見症ニ隨ヒ。治療ヲ

致シ申シ候ト。答ヘケリ。其鑿人ノ意底ハ。脚氣ヲ
疝ト見立テ、ハ。大間違ト云フ時ハ。病家ニテハ。
夫ハトシダ間違ノ藥ヲノミタリ。キカ又筈也ト
テ。藥ヲ乞フ。當然ナリト思ヘリ。是其病家ヲ欺
キ。氣ヲトルハ。恰モ商賈ノ如シ。余此藥ハヨキ藥
也ト云フテ。歸レリ。一月許服用シケレ。何ノ効
モナク。又鑿ヲ更タリト云フ。此人ナトハ。此伎倆
ニテ。年来人ヲ誑シ来ルナルベシ。カクノ如キ人
世上ニ多シ。鑿人ノ第一ニ。慎ムベキナリ。

小嶋五兵衛婦。疥瘡ニテ。診ヲ乞フ。之ヲ診スルニ。黴
瘡ノ合病也。满身發瘡。糜爛シテ。仰卧シ。側卧ハ少
シモテ。キヌト云ヘリ。肛門牝戸ハ。別テ腐蝕甚シ。
大便ノ時ハ。肛門痛ミ。小便ノ節ハ。牝戸ヘシミ。痛
ミ堪ヘガタシト云フ。一年餘ノ卧床故。飲食モ減
シ。精力モ大ニ脱シタリ。羸瘦甚シク。舌ハ厚白胎
ニテ。脉ハ緩弱ナリ。藥ハ速モ即効ナシト。説キ聞
セ。六物解毒湯ニ。荆芥ヲ澤山加ヘ。午前午後夕方
夜分ト。一日ニ四貼ヅ、用ヒタリ。先年麴町ノ煙

艸屋ノ女ノ疥瘡ヲ。療シタルヲ。井觀鑿言ニ載セ
置ケリ。重症ナリシガ。此婦ホドニハナク。且黴毒
モ挾マズ。此婦ハ。二陰ノ腐蝕ヘハ。中黃膏。破敵膏
ヲハリ。精氣追復シ。瘡處モ次第ニ落痂シ。半年
許ニテ快復シタリ。余五十年間。此ノ如キ疥ノ重
症ハ。始テ見タリ。

銀座第三町一商家ノ女十八九歳。診ヲ乞フ。詣リ
ルニ。云フ。去年麻疹ノ後。痛風ノ如ク。處處痛ミ。治
療セシニ。痛或ハ止ミ。或ハ發シ。遷延セシウチニ。

水氣出テ。腹痛甚シ。又鑿ヲ更ケレバ。鑿ノ曰。此通
リニ弱リテハ。水氣ヲ逐フコトハ。逆モデキ又ナリ。
先補劑ニテ。元氣ヲ補ヒ。精カヲ復サバ。水氣ハ自
然ト治スルトテ。治療セシカニ。元氣モ。精神モ。日
日衰フル様ニ。覺ヘ候ト云フ。之ヲ診スルニ。腹ヨ
リ面部四支マデ腫タリ。少腹ノ右ノ方ノ底。餘ホ
ド膿ヲ醸シテアリ。膿ヲトリテモ。十日ハ保ツマ
ジキト思ハル。此ヲ病家ニ説示シケレバ。病家驚
テ吐舌シテ。前鑿誰誰モ。膿ノアルコトハ。知ラヌト

見へ。但補藥ニテ元氣付クレハ。水氣ハ治スルト
バカリ申シ候トテ。頻ニ針ヲ乞フ。余謂テ曰。針ハ
一月モオクレタレバ。膿ヲトリテモ。十日ハ保ツ
マジ。但病症ガワカルマデ也ト云ヒケレバ。死生
ハ天數ニ任セ。針ヲ致シタシト申ス故。鉞針ヲ一
寸程下シケレバ。膿吹出シ。病室ノ天井板ニ及ベリ。
膿ノ臭氣。鼻ヲ撲ガ如シ。病家ノ人人驚愕セリ。コ
レヨリ薏苡附子敗醬散ヲ用ヒ。瘡口ヘハ。メイチ
ヤラ細筆ノ軸ホドニシテサシタリ。日日瘀膿出

テタレバ。追脱シ。十一日ニシテ斃レタリ。是皆
醫人病症ヲ辨知セズ。變味含糊ノ治療ヲナシ。日
ヲ送ルウチニ。病毒或横驚。或變化シテ。不治ニ至
ル也。醫ノ殺スト云フ者ナリ。歎ズベカラズヤ。

板倉藩齋藤鍊之助。診ヲ乞テ曰。九月頃ヨリ。腰脚痛
ミ。歩行ナラズ。治ヲ藩醫ニ托シケレバ。疝也トテ
治療ヲ施セリ。三十日ホド。服藥シケレバ。効ナキ
故。又他醫ニ視セタリ。是ハ氣血水家也。其醫ノ申
スニハ。氣血ノ滯リニテ。所謂乾脚氣ナリトテ。療

ス。是モ三十日餘。服藥シタレ。更ニ効ナシ。又一
鑿ニ視セケルニ。打撲ノ覺ヘハナキヤト云フ。ナ
ル程若キ時ヨリ。弓馬鎗劍柔術ノ修業ニテ。足腰
ヲ痛メタル。度度ナリシ故。モシヤ宿疾ノ發動
セシヤト思ヒ。藥ヲ貰フタリ。親類ノ者モウスニ
ハ。愈打身ナラバ。灸療治ニテ。外ヨリ温メ。内藥ニ
テ氣血ノ循環ヲ付ケバ。早ク治スベシト云フ故。
雙方トモ。昨日マデ七回リ。最早五十日ニ至レ。更
更ニ効ナシト云フ。余之ヲ診スルニ。伏枕久シキ

一。故。身體大ニ肉脱セリ。腰股痛ニ甚シ。余烏頭湯
ニ。七寶承氣丸ヲ兼用シ。五六日服スルト。痛ガ少
シ。輕クナリタリト云フ。病人病名ヲ問フ故。余戲
レニ云フニハ。一人兩名ハ。天下ノ御禁令ナリ。然
ルニ只今マデ。或ハ疝。或ハ脚氣。或ハ打撲ナドハ。
幾ツモ名ガ付キシ故。僕ハ名ハ申サズト云ヒケ
レハ。病人モ大噓シテヤミス。是ハ名ハ付ケザレ
ル。藥効見ヘタル故。押テ聞カザル也。十日バカリ
用ユルト。丸藥ニテハ通ジ少ナシト云フ。依テ芍

藥甘艸附子大黃湯ニ轉方シテ、六貼ツ、用ユ。二十日許用ユルト。杖ニテ坐敷ガアルケルト云ヘリ。病人若年ヨリ。君側ニ精勤セシ故。此冬ハ家老職ニ仰付ラル、ト云フ内沙汰故。シキリニ入精シテ服藥シ。段段痛去リ筋弛ミ。極月中頃ニハ。大抵全快シ。廿四五日頃床ヲ上ゲタリ。案ノ如ク年末召サレテ。執政ヲ命ゼラル。多幸ノ人ト云フベシ。

上槇町鉦屋熊次郎ノ妻。診ヲ乞フ。病人云フ。三四年前。右脛ニ附骨疽ヲ發シ。一瘍科ノ治療ニテ愈タリ。昨年臘末。遠方ヘ往キシニ。風寒ニ感ジタリヤ。腰臀兩脚疼痛シ。惡寒甚シク。誠ニ難義也トテ。仰卧シ兩脚ヲ伸ベ。少シモ動クコナラズ。シカシ附骨疽ニテハアルマヅト云ヘリ。是ハ正月二日ノ事也。熟診スルニ。ヤハリ附骨疽ノ殘毒ノ發動セルナリ。コ、ニ於テ葛根加朮附及鼻湯用ヒケレバ。長強骨邊痛ミ甚シクナリ。漫腫シタリ。兩足ノ跟。及ビ十指ノ頭。皆黒色ニナリタリ。長強骨上兩

跟指頭。皆左突膏ヲハリ。右ヲ下ニシテ。側卧サセ
タリ。長強ハ十三四日ニシテ膿潰シ。瘡口二寸餘
也。此時富永晋齋ト商議シ。ソレヨリ皆破敵膏ニ
カヘタリ。然ル處下ニシタル右ノ腰ノ骨。又痛ミ
出シケル故。左ヲ下ニシタリ。間モナク左モ又痛
ミ出シ。是非ナク伏卧サセ。二便トモニ糞器ニテ
取レリ。左右ノ痛ミ處忽膿潰シ。穴深ク古絮ノ如
キ毒。一パイアリ。毛引ニテヒキ出シ。小ソリ剪刀
ニテ度度ニハサミ切り。其穴へ破敵膏ヲ綿ニ攤

ベツメコミ。大黃牡丹皮湯ニ。伯州散一錢。七寶丸五
分ヅ。毎日兼用トス。三月ノ末ニハ。足跟十指ハ。
大抵愈タレ。膏藥ヲ付ル處尚七箇處也。長強及
ヒ左右ノ腰ハ。追追甚シク。長強ハ徑リ四寸バカ
リニナリタリ。其内ニ暑ニ入り。病人追追弱ル。盜
汗自汗。下利稀膿トナレリ。因テ耆歸建中湯ニ轉
ジタリ。伯州散ハ。續イテ用ヒ。七寶丸モ四分ヅ。
毎日用ヒタリ。五月ヨリ身熱軟瀉。盜汗小便不利。
咽口乾燥シ。飲食減落ス。已ニ死スベクナリヌ。コ

レヨリ柴胡桂枝乾薑湯ニ當歸芍藥散ヲ兼用ス。
膿モ又稠膿ニ復シタリ。藥ハ初メヨリ日ニ五六
貼ツ、用ヒ。膏藥ハ日ニ兩度。夜ニ一度ツ、ハリ
カヘ。心ヲ碎キ療シタリ。膏藥壺ヲニツツ、病家
ヘツカハシ置キ。門人河村謙益。日日張替ヘニ往
ケリ。綿モ莫大入ル故。三月頃ヨリハ。續衣ヨリハ
ガレイダシタル綿ヲ。古^{フル}衣^{キヤ}店ニテ買ヒ。都合十四
枚ツカウタリ。夥シキナリ。暑中ハ臭氣甚シク。
線香ニ把ヲ下婢ニ持セテ。膏ヲ張替ヘタリ。已ニ

死スベク思ヒシガ。暑熱退クニ隨ヒ。食モ少シツ
進ミ。瘡口次第ニ愈ヘ。九月爽涼ニナリテ。大ニ
快シ。然レ凡久シキ伏卧ニテ。腰脚強直ニ固マリ。
棒ノ如クニナリテ。著坐ナラズ。食事ハ勿論兩便
モ出来ス。コ、ニ於テ烏頭湯ニ轉方シ。尚七寶丸
ヲ兼用シ。筋^{スシ}揉^{モミ}ト云フ者ニ。モミ和ラゲサセケレ
バ。屈伸次第ニ出来。十月末マデニ。瘡トトモニ復
故セリ。通計三百日カ、リタリ。翌年一男子ヲ産
セリ。實ニ不可思議ノ全治ヲ喜ビ。每歲年始暑寒

二ハ。必余ヲ存聞ス。感ズベキ也。余モカ、ル大
患ニハ。始テ逢フタリ。

紀藩ノ吉岡宅右衛門息芳太郎。右眼瞳子ニ。星瞖ヲ
發スル。一年年也。三年目ニ星瞖胞腫シテ潰へ。其
痕白クヒキクナリ。恰モ痘痕ノ如クニシテ。少シ
モ見へズト云へリ。余之ヲ眇ルニ。眇淚モ出デズ。
痛痒モ赤脉モナシ。但潰破ノ跡。余程ヒキク白ク。
新月形ヲナシ。瞳子ヲ覆へリ。備サニ經歷ヲ問ヒ
レニ。二三歳ノ時。頭瘡ヲ患へタリト云フ。余思フ

ニ。其毒淨盡セズ。潛伏痼滯シテ。星瞖胞腫ノ禍胎
トナル者ト見へタリ。難治ヲ告ゲ。葛根湯ニ。桔梗
反鼻ヲ加へ。紫圓ヲ兼用トシ。日日二三行ツ。通
利ヲトラシム。其頃會津ノ藩醫水野清庵君命ニ
テ土生元碩へ。眼療ヲ學ビニ来リ。余ガ宅へモ。詩
文ノ話ニ来レリ。因テ右ノ病状ヲ。話シケレバ。夫
ハ不治ノ症也ト云フ。余何故ゾト問ヒシニ。凡眼
中ノ水胞腫瘍等ノ痕。陷凹シタルハ。譬ハ漆器ノ
へゲタル道理ニテ。大小ニモ。場處ニモ。拘ハラズ。

如何ヤウニシテモ。治セヌ者ト。師匠元碩ハ申ス也。是ハ痘痕ノ平ラニナラヌト一理也。何ヲ用ヒ候ヤト問ヒケル故。葛根湯加桔梗及鼻ニテ。凝閉痼著ノ毒ヲ排動シ。紫圓ニテ疏滌セハ。若年ニテ精氣モ充實シ。血液ノ循環モ健ナル故。復故スベシト。答ヘケルニ。清庵師說ヲ泥守シテ肯ハズ。余敢テ心ヲ動サズ。前方ヲ與フルト一月許。白色次第ニ薄クナリ。凹處モ。少シク淺クナル様ニ見ユ。益前方ヲ仍貫セシニ。少シク物カ見ユルニ至レ

リ。是ヲ清庵ニ語リケレバ。清庵手ヲ拍チ。ソレハ妙也。然ラバ吐酒石四錢ヲ。蠟膏ニテ煉リ。大推ヨリ十一推マテ。背部一パイニ。塗り玉フベシ。カヲ極メ摺コム様ニシ。三ツニ分チ。三日ニ塗ル時ハ。必小瘡ヲ發シ。眼患益ヨカルベシト云ヘリ。因テ其言ノ如クセシニ。瞑眩シテ。寒熱ヲ發シ。手足マデモ。小瘡ヲ發ス。顆粒ハ恰モ水痘ノ如シ。前方ヲ用ユルト。又廿日許ニシテ。論語ノ本文ガ見ヘルト云ヘリ。又前方ヲ廿日許用ユルニ。最早註文モ

讀ルト云フ。其頃ハ已ニ白色モ極薄クナリ。凹處
モ高クナリ。發瘡モ皆カセタリ。猶前方ヲ用ユル
一。一月許ニシテ。眼睛常ニ復セリ。清庵モ。是ニハ
驚絶セリ。今已ニ三十年。眼ニ於テ。些ノ患ナシ。始
終轉方セズ。毒ヲ驅盡シタル故ニ。再患ナシ。

川崎驛會津屋某ノ婦。所謂疝積留飲痛ヲ患フル。一
三四年。發則苦痛甚シク。自死ヲ期ス。諸醫ヲ歷テ
治セズ。食漸漸ニ減ジ。精力衰弱。死スルバカリニ
ナリヌ。其頃「米利堅」ノ醫生「ヘボン」ナル者。横濱ニ

来リ。巧手也トテ。風評高ク。患者填溢ス。江戸諸國
ノ醫生モ。入門スル者アルニ至ル。會津屋ノ妻モ。
タトヒ治セズトモ。「ヘボン」ノ療治ヲ受タシトテ。
轎子ニ乘リ。横濱ニ至リ。診察ヲ乞ヒシニ。「ヘボン」
之ヲ診スルニ。何ヤラ器ナドツカヒ。且鼻耳ヲ病
人ノ胸腹ニ付ケ候ヒケレバ。病者モ婢僕モ。奇異
ノ思ヒヲナシ。日本ノ醫者トハ。格別ノ者也トテ。
感服セリ。診シ終リテ。「ヘボン」云ヒケルハ。此病者
ハ不治ノ症也トテ。療治ヲコトワリヌ。主從仰天

シ。頻リニ藥ヲ乞ヒケレ。不治ノ病人ニ。無益ノ藥ハ。與ヘラレヌトテ。藥ヲ與ヘズ。病人耆婆扁鵲ノ如ク思ヒシ。醫人ニ。コトワラレ。大ニカヲ落シ。汝然トシテ歸リ。迎モ死ヌルナラバトテ。飲食モセズ。悒鬱カギリナシ。家人親戚寄合。色色慰メ。漸飲食ヲ進メタリ。ステ、モ置レヌトテ。親族集議ノ上。余ニ治ヲ乞フ。余之ヲ診スルニ。羸瘦シテ。血色ナク。心下痞鞭。晝夜幾度トナク。脊ヘカケ痛シ。時時水飲ヲ吐シ。食物進マズ。夜分寢ラレヌ故

カ。晝ハ鬱鬱トシテ。氣分甚悪ク。人ニ對スルコトモイヤ也ト云ヘリ。余思フニ。其始ノ食禁モセズ。藥治モ仕遂ズ。アノ妙藥。コノ奇方。醫療モ誤藥濫用シ。カク崇患ニナリタル也。面部四支肉脱中ニ。微腫ヲ現セリ。脉ハ沈弱ナレ。必死ノ症トハ思ハレズ。因テ茯苓飲加半夏ヲ與ヘ。消塊丸ヲ毎夜八分ヅ、用ユルコト一月許。痞鞭ユルミ。吐水止ミ。少シク食氣出ツ。コトニ於テ當歸四逆加吳茱萸生薑湯ニ轉シ。消塊丸ヲ一錢ヅ、用ユルコト一月

餘ニシテ。諸患去リ。飲食常ノ如シ。ヘボンニ痛ク
コトワラレタル者。全快セシ故。病者モ家人モ。再
造ヲ謝シヌ。笑フベキ也。

余三十八歳ノ春。大疫ニ罹リ。發汗適宜ニセシカレ。
邪熱追追進ミ。夢中ノ如クナリタリ。大承氣湯ヲ
用ヒタレレ。邪熱尚減セズ。遂ニ人事ヲ知ラザル
ニ至レリ。土井東民。岸田元碩會議シテ。治療シ。萬
死ニ一生ヲ得タリ。十二三日ヲ過キ。神氣イマダタ
シカナラズ。時ニ適見矢木養山来リ。虚羸ノ體ヲ

見。診察シテ。眞武湯コソ。佳ナラント云ヘリ。妻ハ
一日モ早ク差愈サセタク思フテ。頻リニ之ヲ懲
憑セリ。余精神イマダ醉人ノ如クニテ。佳非ノ辨別
モ。ナク用ヒタリ。四貼服スルホドニ。卒ニ小便不
通トナリタリ。種種服藥スレレ。其驗ナシ。導尿管
ヲ兩度マテ用ヒタレレ。小便一滴モ出テズ。四日
目ノ夜ニハ。苦惱甚シク。之ガ爲ニ。精神ハタシカ
ニナリタリ。大便モ燥結セル故。大黃牡丹皮湯四
貼服シケレレ。兩便トモ通セズ。明方ニ大黃甘遂

湯ヲ二貼服シケレバ。即坐ニ吐シタリ。此時蛔一條ヲ吐出ス。翌朝ニ至リ。胸腹心下トモ益脹満シ。苦痛煩悶謂フベカラズ。已ニ死スベクナリヌ。自ラ思ヘラク。タトヒ死ストモ。藥用スベシ。藥ノ用ヒ方。無精ニテ死シテハ。不孝不死ノ罪。父母天地ニ對シテスマズト決心シ。夫ヨリ桃挾淨氣湯ニ轉シ。朝ヨリ未牌マデニ。勉強シテ。十貼服シケレバ。大便快利シ。小漉モ利セリ。始メハ痛ミキビシク。僅ニ蜆殼ニ一ツ程通ジタリ。其後ハ次第ニ多ク。八九度目ヨリ。常ノ如ク通ジ。苦患脱然トシテ。快復セリ。因テ思フ世上ニ。誤藥ノ爲ニ苦痛シ。且死スル者モ多カラシ。諦診スベキコナリ。

醫人ニ文章ヲ能スル人アリ。詩詞ヲ能スル人アリ。書畫篆刺。圍碁刀相カクテ等ニ。妙ヲ得タル人アリ。下リテ連歌俳諧オヤノユ點茶イハナ插花等イハナ瑣藝末技トイヘ氏。人ノ目ヲ驚カス人アリ。但本業ノ醫術ニ達スル人ハ。千萬人中或ハアリ。或ハナシ。豈恠ムベキノ尤ナラズヤ。畢竟ハ本業ニ身ヲ入レ。心ヲ盡サバルガ故

也。何事モ專心致意セザレバ。妙處ニ至ルヲ難シ。蓋シ他事ニ心ヲ分ツ人ハ。本業ノ心ガケ薄キモノ也。其心ガケノ薄キヲハ。自己モ覺ヘ又モノ也。醫ハ疾病死生ノ係ル業故。其伎術ニ達スルヲ。容易ニ非ズ。其妙處ニ至リテハ。言詮文字ノ盡ス所ニ非ズ。故ニ已ニ父師ノ規則ヲ得タル上ハ。專心勉強シテ。伎術ニ造詣スベシ。孟子曰。大匠授人以規矩。不能使人巧ト。是業ノ妙處ニ至ラザルハ。皆吾ガ心思ヲ盡サバ。ルガ故ナリ。

鳥獸ノ病モ。療治ハ。人ト格別異ナルヲ。殊ニ人ノ如ク。疾ニ附テ。憂思ヲ生シ。心氣ヲ結ズヤウノナキ故。病ノ治スルウチ。生命ガ續ゲバ。治スル也。且疾病モ亦多カラズ。馬ハ。眼病ニハ。瀉心湯。黃連解毒湯。藥ハスベテ。鼻ヨリ竹ノサシニテ入ルベシ。目ヤニ多キハ。葛根加芎黃湯。サシ藥ハ熊膽ヲトキ。サスベシ。腹痛ニハ。桂枝加芍藥湯。當歸四逆加吳茱萸生薑湯。大便不通ニハ。大黃ヲ加フベシ。寒氣ニ中リテ。腹痛セバ。人蔘湯。真武湯ヲ撰用ス。

ベシ。腹痛ハ。頻リニ卧タリ起タリスル者也。是ヲ
腹痛ノ徵トス。小便不通ニハ。猪苓湯加大黄。大便
不通腹滿ニハ。大承氣湯。藥ハスベテ一貼ノ重サ
十匁位ニ調合シ。水五合ヲ三合程ニ煮ツメテヨ
シ。輕キ大便閉ハ。午莠ヲ長キマ、蒸焼ニシ。胡椒
末ヲフリカケ。肛門ヘサシコミテモ通スル也。内
羅ハ。葛根加芎黃湯。五物解毒湯ヲ用ユベシ。内羅
ノ毒。陷入閉滯シテ。四脚痛ミ。歩走ノ出来ヌアリ。
是ハ人ノ黴毒ノ骨ガラミノ症ノ如シ。六物解毒

湯加反鼻ヲ。七八日用ヒテ全治シタリシトアリ。
俗ニ結馬トテ。鮮^{ハナ}答^{シラ}ヲ生シ。大便閉ルトアリ。大承
氣湯ニ。甘遂ヲ加ヘ用ヒテ効アレド。上結ト云フ
者ハ。結糞前輪邊ニ閉滯スト云ヘリ。藥ヲ用ヒ。腹
中鳴動シテモ。通ゼズシテ。死スル者也。恐ルベシ。
又足クビニ浸淫瘡ノ如キモノヲ發シ。痛痒ヲ苦
ムトアリ。人ニ咬ツク者也。是ニハ小便ヲ温メ。棹
ノ先ニ雜巾ヲク、リ付ケ。ソレニ浸シ。遠クヨリ
洗フベシ妙也。都會ノ地ニハ。馬鑿ノ良匠モアレ

氏。僻地ニテハ。馬醫モ自由ナラズ。良工ハ尚更少
ナシ。醫人モ心得テ居ルベキナリ也。

近藤頼母公。退隱ノ後。慰ミニ種種ノ鳥ヲ畜ヒテ。閑
ヲ消シヌ。追追鳥ノ取アツカヒ。巧者ニナリタリ。
或時九冠鳥煩ヒ出シ。次第ニ弱リヌ。其項本郷ノ
越前屋ト云フ者。鳥ノ療治ハ。江戸中鳥屋仲間ニ
テノ上手也ト云ヘリ。近藤家ヘハ。鳥ノトニテ。毎
毎出入セシ故。早速呼ヨセ見セケレバ。越前屋種
種藥ヲ與ヘケレ氏。寸効ナク。次第ニ弱リケレバ。

術盡タリト云。治ヲ辭セリ。余適同居セル小出氏
ヲ病氣ニテ往視ニ。老公又ヲ以カハサレ。九冠鳥
不快ニテ色色手ヲ盡セ氏愈ヘズ。ヨキ藥アラバ。
之ヲ乞フト。余其人ニ向フテ曰。鳥ノ療治ハ。イマダ
致シタルコトナシ。如何ナル病氣ナリヤ。曰越前屋
ハ。人ヲ熱病ト同シト申ス。ナル程水バカリ飲ミ。
餌ハ少シモ食ハズ。血液モ枯燥シ竭キタリト見
ヘテ。體スクミ。足チバミ。壻^{トク}ヘモ上ラヌ故。逆モ命
ノナキコト思ヒ。昨日ヨリ水ヲモ與ヘズ。死ヲ俟

テ氏。今日ニ至リテモ死セズ。然ラハマダ救フベ
キ道アリヤト存ジテ。藥ヲ乞フノミ。余曰。藥差上
クベケレ氏。縱令死ストモ。僕ヲ御恨ミナキヤウ
ニト云ヒケレバ。其人云フ。最早死スル者ニ。究メ
置ケリ。何ゾ君ヲ恨マント。因テ白虎湯三貼ヲ與
ヘ。冷シ用ユルヤウ云ヒヤリヌ。然ルニ右ノ鳥。渴
甚シキニ。前日ヨリ水ヲモ飲マセズ置キタル故。
三貼ノ藥ヲ。暫時ニ飲ミ切り。復余ガ宅ヘ藥ヲ乞
ヒニ來レリ。門生共方名知レザル趣ヲ申シ。使ヲ

返セシニ。白虎湯也トテ。使者重子テ來レリ。即又
三貼ヲ贈ル。翌日ハ餘程ヨク。夜ハ時^トヘモ上リタ
リト云フ。其翌日余小出氏ヘ往キシニ。老公ヨリ
最早大抵ヨケレ氏。餘熱イマダサメザルニ似タリ。
然シ飲啄トモ。略常ノ如シト云ヒコサル。因テ竹
葉石膏湯三貼ヲ與フ。都合九貼ニテ。サラリト平
愈セリ。其翌日快晴也。久シブリニテ。氣バラシヲ
サセントテ。籠ヲ庭上ノ松ニ繫ケタリ。折節種^ク樹^キ
夫三四人刈コミニ來リ。木ノ上ニテ互ニ物語リ

ケルヲ。九冠鳥松ノ樹ヨリ。口真似ヲセシカバ。種
樹夫大ニ驚ケリトゾ。又赤坂傳馬町市兵衛夫婦
診ヲ乞フ。之ヲ視ルニ。夫婦トモ蛔ノ症也。因テ両
人トモニ。鵲菜湯ヲ服セシム。八九日ノ後。其婦
来リ。御カゲニテ。家内三人トモ。全快セリト。謝ス
ル故。小兒アリヤト問フニ。小兒ハナク候ヘ氏。奇
妙ノコトコレアリ候。煎藥ヲサマシ置キ忘レタ
レバ。猫カ飲ムヲ見付ケ。追拂ヒ候ヘ氏。最早半分
餘モ飲ミタリ。然ル處細キサナダノ如キ蟲數條ヲ

下シ。從來氣重モノ懶シキ猫。誠ニ氣輕ルクナリ。
鼠ヲヨク取ル様ニナリタリトテ。一笈シヌ。余嘗
金魚ヲ畜ス。小兒輩魚ノ飢飽ヲ知ラズ。燒麩ヲ頻
リニ食ハセケレバ。腹滿シテ。水上ニゴロゴロト
シテ。死スルバカリニナリタリ。逆モ死スル者ト
思ヒ。紫圓一粒口へ押入レケレバ。半時バカリニ
シテ。索麵ノ如キ糞。長サ三寸バカリナルヲ。二三
條下シ。忽圍圍焉トシテ。常ノ如クニナリヌ。凡鳥
獸ノ類ニハ。藥ノ專長モアリト雖。正シキ方ニテ。

効ナキハナシ。

人ハ才アリテモ、學ヒテ廣ク古今ヲ稽ヘザレバ、用ニ臨ンテ、施設ヲ誤ラザルコト能ハズ。又才學共ニ勝レタリトモ、識見ナキ者ハ、事ニ逢フテ、趣舍向背ノ際、時トシテ從違ヲ過ツコトアリ。故ニ才學識ノ中ニテ、識ヲ尤貴シトス。頃日多紀氏ノ時還讀我書ヲ見ルニ、其書國字ニテ書シ、菴庭ニ在テハ、元ヨリ其土直トスルトコロナレ氏。其自述スル所甚深切ニ、古今ヲ采録スルニ至リテモ、亦極ノ

テ見解アリ、然シ議スベキコトモ亦少ナカラス。余頃日讀時還讀我書ニ卷ヲ作ル。今數條ヲ摘撮ス。讀我書曰、小林東鴻ナル者、蝦夷地隨營ノ鑿トナリテ、彼方ニテ九度寒暑ヲ經タリ。因テ青腿牙疳ノ證治ヲ、詳ニ余ニ語レリ。曰其證西北ソウヤカラフト。東地クナシリ子モロアツケシノ地方ニ多シ。土人ハ患フルコトナク。唯戍衛ノ卒伍奴隸ニ多ク。隊長ナド諸士ニハ稀也。又夷人松前ニ至ル者マ、之ヲ患フ。大抵七八月ノ際ニ發ス。又三四月

學思齋

頃雪ノ解ル節ニモマ、アリ。冬月コトニヨリ發
スルアリ。尤劇シ。感冒寒熱ヨリ變スルアリ。又食
傷ヨリ變スルアリ。嘗一人モミノ木。彼俗トビト
云フ。其菌ヲ食シテ傷ラレト
二三日モ差ヘズシテ。然レ氏此二證ハ甚稀也。大抵
テ。此症ヲ發セリ。初起脚氣ニ類シテ。手足麻痺甚シク。又初起胫腿
ノ汗空ヨリ。毛ノ如キ紅線數多生シ。叢簇斑ヲナ
シ。紫色ニ變シ。又紫黑色トナリ。遂ニ青黒ニ變ズ
ルハ。尤劇シトス。此斑ヲ發スル者。十中ノ二三也。
何ノ證モ。遂ニハ周身浮腫シテ。之ヲ按シテ起ラ

ズ。肩背胸膈滿痛シ。渴甚シク。其脉駛也。劇シキ時
ハ。心腹痛悶。呼吸短促。虛里跳動。嘔吐スルナド。脚
氣ノ衝心ト相似タリ。小便或ハ利シ。或ハ利セズ。
大便鞭ハ治シ易ク。軟ナルハ治シ難シ。牙齦腐爛
スルハ少ナシ。又遂ニ咽喉ニ及ボス者アリ。口臭
キハ難治也。大抵急ナルハ。三四日ニテ死シ。緩ナ
ルハ。一二月ニテ死ス。モシ舌上青黒ナルモ難治
也。コレヲ發スルハ。一旦快クトモ。重發救フベカ
ラス。其病愈ル者。腫退クヨリ。皮厚ク甲錯シテ。其

色青黒光亮ニシテ。終ニハ剥落スル也。其治法ハ。温補清涼證ニ隨ヒ用ユ。下劑ハ宜シカラズ。初起傷寒ト同ジク。大小青龍柴胡越婢等ヲ用ヒ。浮腫甚シキカ。又ハ微シク麻痺スルニハ。二妙散効アリ。千金ノ黑豆大麻子ヲ散トナスノ方モ佳也。又傷寒ニ似テ。舌胎黒ク。壯熱煩渴。冷水ヲ欲スル者アリ。白虎湯ヲ與ヘテ。溺利シテ愈ル也。大抵灸シテ妙也。壯數穴數。多多益善トス。灸瘡差ヘザラシムベシ。發斑ノ症ハ。瀉血ヲ妙トス。多クハ尺澤委

中ヨリ瀉ス。其血紫黒ニシテ。濺ギ出ツ。斑上ヲ三稜針ニテツツキテ。血ヲ出ダス佳也。此鄂羅斯人ノ傳也。然レ疔腫中動強キハ。不治ニシテ。之ヲ刺セバ却テアシ。衝心ニ至リテハ。脚氣ト同ジク。唐侍中一方。但吳茱萸ヲウケス。茯苓飲。崔氏一方。大柴胡湯。三聖丸。犀角ナド。證ニヨリ酌用ス。又大蒜煎。或菹茗等ヲ藥ニ加ヘ。或煮食セシム。又萊菔子根トモニ効アリ。套劑ヘ子ヲ加ヘ用ヒテ可也。鄂羅斯ノ方ニ蕃椒ヲ割ミテ。椀中ニ入レ。麻沸湯ヲ灌ギ。數

杯ヲ飲マシメ。青菜菴汁ヲ。遍身へ塗り。厚覆シテ。大汗ヲ取ル。亦効アリ。或ハ大陷胸湯。少シユルンテ黄連解毒湯ヲ與ヘテ。治シタルアリ。何レ急證ハ不治ナル者也。嚮ニ鄂羅斯人囚ニ久シク在テ。此疾ヲ得タリシニ。久シク獸肉ヲ食セズ。粳飯ヲノミ喫セシ故ニ。發セリトテ。獸肉ヲ求メ食シテ。愈ヘタリ。又煙艸ヲ吸ハザレバ。之ヲ患フト云ヘリ。蓋風土ト飲食ノ異ナルヨリシテ。此疾ヲ得ルハ。彼我一也トミヘタリ。東鴻後ニ鑿官坂氏ノ養

子トナリテ。今現ニ御番ヲ勤ムト。逸先ニ山梨某ナル者ヲ療セシコアリ。其人宮館ニ祇役シ。命ヲ蒙ムリ。蝦夷地諸方ヲ巡視ス。瘴毒ニ感觸シ。宮館ニ歸リテ。疾ムコ甚シ。數鑿ヲ經テ。麻痺諸症ハ漸漸治シタレト。引ツバキ浮腫ヲ發シテ。イカニシテモ治セズ。適魯西亞船來舶ス。因テ治ヲ鄂鑿ニ托ス。鄂鑿何ヤラン水藥ヲ。總身ニ塗り。丸藥ヲ服セシム。度度水瀉シテ。一月許ニシテ。水氣ハ治シタレト。又週身痛ヲ發シ。歷節風ノ如シ。鄂鑿種種

スレ氏。痛ニ更ニ差ヘズ。初起ヨリ久シクナリシ故。長クモ彼地ニ居ラレズ。昇シテ江戸ニ歸リ。又洋醫數人ヲ歴テ差ヘズ。後余ニ診ヲ乞フ。之ヲ視ルニ。面色如土。一身肉脫粗糙。乾蛙ノ如シ。脉微數也。病者云フ。身痛ハ作輟モアリテ。近来ハ少シカモ付キタル故。宅ニ許リ居ルモ退窟ニテ。快晴ニハ。近邊へ遊歩スルコトアリ。然レ氏途中ニテ。忽然ト疼痛發動シテ。一步モ進ムコト能ハズ。其時ハスグニ路傍ニ居ヅクマリ。身體手足ニ拘ハラズ。痛

ム處ヲ從僕ニ命ジテ。指頭ニテキビシクモマシレバ。暫時シテ痛ミシヅマリヌ。其痛ミノ發スル霹靂ノ俄ニ動クガ如クニシテ。劇痛ノ状。言語ニ譬ヘ難シ。箇様ニテハ。タトヒ漸漸氣分ハ爽快ニナリテモ。出勤ハ出来マシト思ハルト。余之ヲ診スルニ。ヤハリ瘴毒ノイマダ盡キザル也。是ニ於テ葛根加木附湯ニ。毎日通天再造散一錢ヲ兼用ス。兩便快利シテ。痛ノ作輟。日ヲ追テ減ズ。服スルコト一月許ニシテ平愈セリ。尚前方ヲ用ユルコト一

旬許ニシテ。殘毒洗フガ如シ。

又曰。先教諭ノ言ニ。東洞ノ藥徵ハ。見識アリテ。有用ノ書也。太冲ノ藥選ハ。取ルベキヲ。殊ニ少ナシト。逸云フ。多紀氏ハ。本艸ノ說ヲ遵守スル人也。東洞先生ハ。本艸ノ誤リヲ辯スル人也。其意見固ヨリ同ジカラズ。然レモ其公論此ノ如シ。真ニ有識ト云フベシ。他ナシ。理ノ昧マスベカラザルガ故也。揚用修曰。三代後無真理學。六經中有偽文章ト。人此眼無シバアルベカラズ。

又曰。和田東郭ノ傷寒論正文解二卷。國字ヲ以テ録セリ。門人ノ筆記ト稱セリ。其刪草改句ハ。時弊ヲ脱スルヲ能ハズト雖。大抵コレヲ實驗ノ上ニ得タリ。故ニ頗實際ニ益アリ。彼ノ好テ立言ニ急ナル者ト。甚逕庭セリ。學者宜シク閱スベシト。逸モ亦正文解ノ板本ヲ。一覽セシニ。稱スベキ程ノ説モナク。老年ノ著作ナルベキニ。何如ニシテカクアリシニヤト。心ニ疑ヒシ後。其門人ニ出會シ。其言ヲ聞ニ。東郭傷寒論ヲ注スルヲ。凡ソ三度也。段

段論說見解カハリ。今ノ印行ノ書ハ。定說也ト云
ヘリ。氣ノ毒千萬ノ一也。鑿書ハ日用ノ者故。前後
齟齬未定ノ說ナト。書キチラシ。幾度モ書キ改タ
ムルナト。定見規則モナシト云フベシ。是何事ゾ
ヤ。若シ東郭ヲシテ。更ニ二十年モ世ニ在ラシメ
バ。恐ラクハ其見解。又幾度モ變ジテ。今ノ板本モ。
必氣ニ入ルマジ。笑フベキノ尤ナラズヤ。菑庭氏
ハ。イカナル本ヲ見テ。賞セラレシニヤ。
又曰。一男子年四十餘。外邪ヲ得テ。失下ノ故ニ。十數

日解セズ。治ヲ余ニ乞フ。診スルニ。熱猶劇シク。不
治ノ諸候顯ハレシカド。已ムヲ得ズ。調胃承氣
湯ニ貼ヲ用ヒシニ。凝酥ヲ下ス。五行。一日隔テ
、夥シク脱血シテ。死シタリ。此病人舌ハ黃褐ニ
シテ。燥澁ナリシガ。両畔ト尖リニ。紫黒ノ血點。豆
大ニ一點ヅ、見ハレタリ。此蓄血ノ徵ナルベシ。
是ヲ石崎隆長ニ語りシニ。嘗テ壯婦ノ傷寒面部
舌上ニ紫黒斑アリ。初メハ舌衄夥シカリシガ。後
ニ身面ノ斑ヨリモ出血セシト。一老人ノ面部。抓

破ヨリ黒斑ヲ發シ。出血セシトヲ。見タリシガ。俱
ニ不治ナリキト云ヘリ云云。逸謂フ多紀氏ノ診
セシ頃ハ。最早治療機ヲ失ヒタル也。傷寒ノ面身
四肢ニ紫黒斑ヲ發スルハ。生来多毒ノ人也。多ク
ハ不治也。此人ハ失下ニテ搏シ。熱毒腹中ニ稽留
シテ。下血シ。精氣隨テ暴脱シテ。死セシ也。傷寒ハ
初起ヨリ邪氣熱勢ノ輕重緩急ヲ審ニシ。始終ノ
變動ヲ洞見シテ。汗下ノ機ヲ失フベカラズ。余難
症壞症等ヲ見ルニ。十人中八九人ハ。皆失下ノ病

人也。治療ノ機會ヲ。了得セザル鑿ノ多キニハ。洵
ニ浩歎ニタヘズ。

又曰。隆長ノ言ニ。陰癩焮腫ノ。烏附諸藥効ナキニ。黴
毒ヨリ来ル者アリ。龍膽瀉肝湯ヲ與ヘテ。兩三人
ヲ治シタリト。逸按ズルニ。是ハ郅書燕說也。菑庭
氏ハイカミ心得ラレシニヤ。此ハ皆陰癩ニテハ
アルマジ。疑フラクハ黴毒潛伏ノ人。陰囊凝腫焮
痛スル者ナルベシ。陰癩ハ。黴毒ニ因ルモノニ非
ズ。故ニ水癩腸癩トモ。龍膽瀉肝湯ナドニテ。全治

スル者ニアラズ。水癩ハ。針ニテ水ヲ取ル。是ヲ上策トス。然レ凡一度ニテ治スル者アリ。二度モ三度モ取ラ子バ。治サヌモアリ。腸癩ハ。針スベカラズ。此ハ當歸四逆加吳茱萸生薑湯。大黃附子湯芍藥甘艸湯合方ノ類ニテ。小腹ヲヤハラゲルヲ佳トス。癩下ガ。クセニナリテハ。治サヌ者也。姑息ノ事ナレ凡。紐帶ヲ施シテ。難儀ヲ救フベシ。左スレバ歩行起居。常人ノ如シ。其說クハシク。井觀鑿言ニ出ダセリ。余嘗一老人ヲ療ス。罽丸ヲサグリ見ル

ニ。腸癩ノ如ク。又水癩カトモ思ハル。病者レキリニ。針刺ヲ乞フ故。鉞針ニテ。口ヲ開キシニ。水ハ出デスシテ。麩筋ノ如クナル者。ニ合許ヲ出ダス。其質光透粘滑也。従前ノ鑿書ニ。イマダ見ザル所也。刺後囊形。平人ノ如クナリヌ。眞ニ奇ト云フベシ。又曰。余六七歳ノ時。人アリテ小碁局ヲ贈リ。玩弄ニ供ス。童心甚喜ビシヲ。先教諭見玉ヒテ。赫然トシテ曰。凡博碁ノ類ハ。鑿タル者ノ。知ルベキニ非ズ。其樂ニ耽ルニ至リテハ。晨夕志ヲ喪ヒ。學業ヲ廢

棄之。刺へ局ニ對スル時ハ。縦ヒ急病ノ乞ヒ來ル
アルモ。往診スルヲ。遲怠スルニ及ブコアリ。故
ニ幼年ト雖。戒慎ゼスンバアルベカラズトテ。命
ジテ亟ニ火ニ投ゼシメタリト。逸幼稚ノ時。王父
紫峰君ノ誠ニモ。鑿ハ。碁將碁ハ決シテ學ブベカ
ラズトノ玉ヘリ。其言其意。多紀氏ニ同ジ。夫故碁
モ將碁モ。知ラズシテ過ギヌ。知ラズトモ何ノ差
支ヘモナシ。余常ニ思ヘラク。白俗ハ論ズルニ足
ラズ。唯儒先生ノ集會シテ。暑寒モ厭ハズ。晝夜ヲ

忘レ。固坐シテ。圍碁スルヲ見ル毎ニ。消閑排悶ノ
具ナルヲ。カクマテ凝リ堅マラズトモ。經義ノ談
カ。詩文ノ話ヲナサバ。以テ會友ヲ益アルベキニ
ト思ヘリ。夫子ノ爲之猶賢乎已トノ玉ヒシハ。他
ノ事ハセズトモ。是ニテ日ヲ暮ラセト云フコニ
テハアルマシ。深ク思フベシ。
又曰。宇都宮ノ手束柳榮ノ話ニ。近來彼地ニ。一種ノ
疫アリ。其證熱勢劇シカラズシテ。初起ヨリ。四肢
ニ紫黒斑ヲ發ス。恰黒痣ノ如シ。之ヲ爪スルニ。血

色ナシ。四肢トモニ。陰分ニ多シ。次第ニ色黒ク。繁衍スル時ハ。

胡麻ヲ撒シタルガ如ク。病重キハ。胸腹ニ及ブ。飲

食モ稍進ミ。二便モ多クハ自可ニシテ。起歩モ自

若ナルガ。日ヲ逐テ委頓シ。遂ニ斃ニ就ク也。マ、

不利スル者アリ。諸治効ヲ得ズ。既濟湯ナド。葭附

ノ方ニテ愈ヘタルアリ。然レモ小兒ノミ全治

シテ。大人ハ皆不治ニ屬セリ。尋常時氣病ニモ。此

斑ヲ現ハス者アリト。是陰毒ニテモアルベシ云

云。逸思ヲニ。急症ニテモアラズ。何トカシテ手早

ク。逐邪排毒ノ術アルベキ也。病ノ重キトミナ

ラズ。伎術ニ精詣セシ人ノナキナルベシ。既濟湯ナ

ドハ。仲景ノ竹葉石膏湯ヲ。藥ノ君臣佐使モ。カマ

ハズ。縦ニ去加セル者ニテ。例ノ末世ノ毛唐人ノ

癖ヨリナセシ者也。ソレヲ感心シテ。奉戴スルハ。

笑フベキ也。

又曰。鎮西諸州ニハ。夏月小兒ノ暴利。多ク行ハルト

聞ケリ。筑前ニハ。其證尤夥シ。余彼藩ノ鑿青木春

澤ニ乞フテ。其概略ヲ録セシム。今爰ニ掲出ス。云

學思齋藏

フ暴利ハ。多ク^五六月頃ヨリ八九月頃マデアリ。就
中中元後。稍涼氣ヲ催ス時節最多シ。其證候ハ。初
起發熱惡寒。惡寒ハ。初起ノミニテ。多クハ速ニ止ム。又無キモアリ。頭痛。四肢
怠惰。面色少シク熱色ヲ帯ビ。脉浮數。或洪滑。微ニ
腹痛シ。或ハ腹痛セズシテ。圍ニ登リ。滑便二三行。
爾後卒然トシテ熱勢前ニ倍シ。肌熱手ヲ灼ガ如
ク。周身自汗出テ。劇シケレバ浴スルガ如シ。面色
朱ノ如ク。發搐譫語煩渴ス。茲ニシテ多クハ清穀
臭穢鼻ヲ撲ツ物ヲ。遺屎スルト一二行。或三四行。

稍煩渴ヲ加ヘ。藥汁或ハ米飲等ヲ與フルニ。小磁
器或ハ蛤殼ヲ以テ。口邊ニ著クレバ。撮口ス。頻リ
ニ進ンデ。頻リニ嗜ムアリ。是煩渴ノ爲ニ飲ム者
ニシテ。動モスレバ吐出スルアリ。此時多クハ神氣恍惚睡ルニ至ル。又虬候一二證ヲ現シ。食物ヲ吐逆スルアリ。脉
モ依然タレ氏。自根脚ヲ失シ。肌熱モ甚シケレ氏。
自汗ノ爲ニカ。手ヲ以テ。暫時肌ニ著クレバ。掌中
冷氣ヲ覺ユ。續テ清穀臭穢ヲ下利スルモアリ。或
ハ腹中穢物盡キテ。虛軟ニナリテ。下利スルモア

方伎雜誌 卷三 五十四

リ。両方ナガラ悪候ニシテ。脉モ倫次ヲ失ヒ。速ニ
弊ル也。初起ヨリ。僅ニ一周時ヲ過ギズ。茲ニ至
ル者多シ。又此證大抵四五歳乃至八九歳ノ兒最
多シ。偶然十三四歳ニ至リテ。患フル者アリ。十歳
以外ハ。救フベキ者多シ。且府治一二里ノ間ニ多
シ。コレニ因テ。之ヲ考フルニ。夏令鬱蒸ノ時氣ニ
當リテ。恣ニ臙味ヲ食ヒ。胃府運化スルヲ能ハズ。
蓄積ノ腐穢トナル。譬ハ暑時ニハ。食物其品ニヨ
リテ。早ク饑ルニ同ジ。此證ノ劇易。初起ノ際。預メ

知ルベキアリ。認メ得難キモアリ。固ヨリ輕ニ至
リテハ。下利モ亦滑利ノミニシテ。愈ルアリ。又赤
白利トナリ。荏苒治愈スルモマタ多シ。治方ハ黄
芩湯。丸味清脾湯。藿香正氣散ナド。初起ニ用ヒテ
愈ル者ハ論ナク。清穀臭穢ニ至リテハ。專ラ附子
ノ宜シキ所也。又胃中冷ヘテ。活虵數條。咽中ヨリ
出ルハ。最悪候也。瞬息ノ間ニ。死生ノ岐ル證ナレ
バ。忽ガセニスベカラサル也云云。逸按ズルニ。此
病ハ。食物久シク蓄積シ。時氣ト水土ニ因テ發ス

ル症ニ疑ヒナシ。初起精力ノ脱セザルウチニ。紫
丸備急圓ノ類ヲ。症ノ輕重ニ隨ヒ用ヒ。速ニ腸中
ノ穢物ト邪熱ヲ蕩滌シ。煎湯ハ人蔘湯。桂枝人蔘
湯。或ハ半夏瀉心湯。附子理中湯等ヲ撰用セバ。必
効アラシ。何レニモ初起早ク腹中ノ汚毒ヲ掃除
スルニアリ。又按ズルニ。清穀下利モ。胃中鬱塞閉
滯シテ。化熟蒸騰ノ機ヲ失フヨリスルアリ。或ハ
コレニヨリテ。厥冷スルアリ。ソレヲ附子ノ症ト
誤ル人アリ。又吐蚘ハ。多ク胃熱ニヨル也。寒熱ノ

真假ヲ誤認シテ。藥ヲ與フル者アリ。且清穀下利
ハ新便也。臭穢鼻ヲ撲ツガ如キモノハ。蓄積ノ宿
便也。蓋シ病人ヲ一見洞悉ノ識アリテ。又投機達
權ノ才アルニ非ザレバ。斯ニ與カルヲ能ハス。以上

讀我書

子曰。南人有言曰。人而無恆。不可以作巫醫。善夫。不恆
其德。或承之羞。子曰。不占而已矣。鄭玄ハ。巫醫不能
治無恆之人ト註セリ。朱熹ハ。巫所以交鬼神。醫所
以寄死生。故雖賤役而尤不可以無常ト註セリ。田

中愿仲ハ。禮記緇衣ニ。不可以爲卜筮トアルニ據リ。論語ハ。爲トノ二字ヲ誤脱シ。筮ノ一字ヲ作巫ノ二字ニ誤リ。鑿ハ繫ノ誤リニテ。下句ニ屬スト解セリ。サスレバ。繫善夫ト。夫子ノ嘆美シ玉フ。辭益深クナル也。又ヲ引タルト結句ヲ見レバ。少シモ鑿ニ涉ラス。皆占筮ノトノミナレバ。此モ亦一説ニ備フベシ。姑書シテ識者ノ是正ヲ待ツ。愿仲ハ。東洞先生ノ高弟也。朱熹ガ鬼神ニ交ルヲモ。死生ヲ寄スルヲモ。賤役也ト云フヲハ。イカナルトニヤ。

子思曰。有弗學。學之弗能。弗措也。有弗問。問之弗知。弗措也。有弗思。思之弗得。弗措也。有弗辨。辨之弗明。弗措也。有弗行。行之弗篤。弗措也。人一能之。己百之。人十能之。己千之。果能此道矣。雖愚必明。雖柔必強ト。學術藝業ニ達セント欲スル者ハ。謹テ此語ヲ守ルベシ。鑿タル者。世上ノ用ユル用ヒザルニ拘ラズ。先第一ニ。己ガ術ヲバ修鍊スベシ。鑿ハ姑ラク之ヲ舍ク。古ヨリ賢人君子ノ輒軻數奇ナル者。舉テ數フベカラズ。然レ凡其名ハ永ク世ニ遺レリ。

孔孟ノ如キスラ。時ニ用ヒラレズ。周公モ流言ヲ免レ玉ハズ。然レ凡聲名ハ末代盡ルナシ。何業ニテモ。至極セル人。流俗ニハ却テアハ又者也。孟子ノ言ニ。不_レ虞_ラノ譽アリ。求_ル全_キノ毀アリトアリ。毀譽ニハ拘ハルナカレ。世ニ知ラレサルヲ。憤悶スルハアルマシキ也。孔子曰。居則曰不吾知也。如或知_ハ爾。則何_ヲ以_シ哉。又曰。不患_レ人之不_レ已_ラ知_ラ也。不_レ能_レ也。又曰。君子病無_キ能_ヲ焉。不_レ病人之不_レ已_ラ知_ラ也。學者此言ヲ遵奉シテ。ヒタスラ藝業ヲ琢磨スベシ。

子思曰。夫孝者。善繼_キ人之志。善述_ル人之事者也。ト。繼述ノ一ハ。誠ニ人ノ大節ノ一也。然ルニ世上ノ鑿人ヲ見ルニ。古方ヨリ。後世方ガ王公貴人ノ受ケガヨイノ。漢方ヨリ。西洋方ガ賣レガヨイノトテ。親傳ヘシ道モ。師ノ授ケシ法モ。弊_ル屢_クヲ脱スルヨリモ易ク。何トモ思ハズ。恰商賈ノ業ヲ改ムルガ如シ。但是鑿法ヲ渡世トノミ。思フガ故也。ソレモ禄仕ノ人。君命ニテスルハ格別也。已一身ノ上ヨリスルハ。但名ト利トノ爲也。耻カシキ心ナラスヤ。

不孝不義ノ至リナラズヤ。吾子孫タルモノ。吾ガ
此一言ヲ守ラズンハアルベカラズ。

方伎雜誌卷三

畢

跋

今茲庚午。家翁齡七十二。意氣蓬勃。聰明不異壯時。刀
圭拮据之暇。誘導生徒。循々不倦。平生著撰十數種。頃
者方伎雜誌脫稿。武等謂。鑿人之埋首。没身于臆說空
論者。殆千餘年。東洞氏出一遵奉長沙。以平實明確為
教。終風靡天下矣。而舊習之難遽變。折衷古今。攻補兼
用之說興焉。其流雜糅不倫。汎濫無紀。口徒誦長沙。施
設全襲宋元之弊。正路日就荒蕪。洵可慨嘆也已。此家
翁著書述古之所不能已。而武輩所當鞠躬盡力也。乃

與二弟謀。授斯書。剞劂氏。其工竣也。又請之家翁。次第整頓。將續而鏤刻。以廣其傳云。

明治三年庚午秋

男 武謹識

服部順書

方伎雜誌跋



武謹識



家嚴刀圭之暇。以讀書作文自娛。著書十數種。已行于世者數部。今者復揭胸中所蓄。屬以國字。名曰方伎雜誌。雖未足盡家嚴學識。而其說皆出于自得親

驗。非敢臆測懸斷。讀者賴焉。以
施治。未必無裨益也。因請而命
剗。剗以授生徒。固非供大方之
觀。讀者莫尤其雜綴無倫次云。
明治三年庚午冬十二月。文自
喜多見重。遠撰併書。



跋。因與二只。昨齋同。外州。情。因。思。智。今
騁智善投機會。運心善讐權變。則醫能事
畢矣。才雖邁倫。學雖超衆。非師古得其門
而入。何以能之哉。師古莫如長沙氏焉。家
翁為醫。排歷代榛蕪。獨問津於長沙。其所
唱。尚率由之所施。亦準揆之圓活。融通智
之所騁。心之所運。機合權適。一七半劑。起
癆治瘡。蓋若有神助焉。今年七十二。焯礪

激昂尚且不倦。平生嗜筆記。隨得輒筆。日復一日。月復一月。片紙短牋。疊疊溢乎筐。簾頃者。撫裛之。為三本。題曰方伎雜誌。示之子弟。以換面命口授。國字記之。要其易曉也。然皆出於實踐親驗。其言直截精確。讀者苟參互檢之。則知所以投機會。離權變而不惑。其利診按。而佐施設者。蓋非淺鮮也。因與二兄相議。同校附剗。嗚呼。今

世師古者。蕩然掃地。義雖媿憤。家箴存肺腑。庭訓填胸臆。可不為自奮勵耶。竢其開雕。置數語於卷尾。將與同志俱懋力從事云。

明治三年庚午芸生荔出之月

男存義謹識



榕堂尾臺先生著書目錄

中善齋編
卷之四
問

橘黃鑿談

二卷

重校藥徵

三卷

辨妄書

一卷

療難私指

一卷

療難百則

一卷

鑿餘

既刻

三卷

方伎雜誌

既刻

三卷

扁鵲傳私斷

一卷

霍亂治略

既刻

一卷

類聚方廣義

既刻

一卷

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

井觀鑿言

三卷

校訂東洞先生答問書一卷

讀時還讀我書二卷

校訂先考支方先生遺稿一卷

歸北日記

一卷

學思齋存稿 二卷

敲雲詩稿

一卷

閑窻筆錄 三卷

適意抄筆

十六卷

校訂先考支方先生遺草一卷

右二十部四十八卷將行彫刻問
于世子弟等謹識

尾臺良著作

門人 芳野恒齋書

明治四年辛未春三月

東京馬食町二丁目 森屋沼兵衛

